

# MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

MPM

2015  
SUMMER  
AUTUMN  
VOL.3

むさしのパークライフマガジン

YOUR PARK LIFE : Park Life × 絵本

FOCUS : パークレンジャーと絵本の記憶

ESSAY : ヴィンテージのピクニックカップ

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きっと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。





都立武蔵国分寺公園「ばったランド」

※「ばったランド」では、草丈などを調整し、子どもたちが虫と触れ合える場になっています。



# Park Life × 絵本

公園で出会う、うっとりするほど美しい風景や  
可愛らしい小さな生きものたちの姿から  
絵本の中のワンシーンをふと思い出すことがあります。  
そんな公園の風景と、そこから見えてくる絵本の世界をご紹介します。

ほら、そこに。  
目をこらせば見えてくる。

都立浅間山公園

文字はなく、いろいろな森の風景が描かれています。じつと眺めていると、森の中で暮らしている動物たちの姿が浮かび上がって見えてくる、隠し絵のような絵本です。公園にも同じように豊かな森があり、緑の向こうには普段は気づかない動物や鳥たちの世界が広がっています。

「もりのえほん」

作・絵：安野光雅 / 福音館書店



落ちこむと、  
乗りたくなるのは  
なぜだろう。

都立府中の森公園

公園のブランコはいつも人気者。順番を横取りされて怒ったり、二人乗りして落ちちゃったり、そんな懐かしい記憶を思い出すような絵本です。いくつになっても乗ってみたいくなるブランコ。思いっきり高く高く、夢中でブランコをこぐと、なぜかスッキリした気持ちになりませんか？

「ねずみくんとブランコ」

作：なかえよしを 絵：上野紀子 / ポプラ社



自然の中には、  
素敵な模様がいっぱい。

都立武蔵国分寺公園

うさぎさんの白いワンピースが、お花畑を歩けば花模様になり、雨が降れば水玉模様に魔法のように変わっていきます。自然の中をいつもと違った目で歩くと、素敵な模様にたくさん出会えるかも…。お散歩に出かけたい絵本です。



「わたしのワンピース」  
作・絵：しまきかやこ / こぐま社





みんなが歩けば、  
毎日が冒険。



都立府中の森公園

ダメと言われるとつい反対のことをしてしまう11びきのねこたちは、最後に痛い目にあいながらも学んでいきます。いつもの公園も、みんなといればちょっとびり大胆なこともしたくなる冒険の場になるかもしれません。

「11びきのねこ ふくろのなか」  
作・絵：馬場のぼる / こぐま社



森でみつけた、  
おとぎの世界。

都立武蔵園分寺公園

しかけをめくると、きのこのおうちに暮らす、小さな生きものたちの生活をのぞくことができる絵本です。公園の中には、おとぎ話から飛び出してきたようなかわいいきのをたくさん見つけることができます。あなたのお気に入りきのこのおうち、探してみませんか？

「きのこのおうち」

作・絵：ベンジー・デイヴィス 訳：上野和子 / 大日本絵画



夜の公園には、  
こんな主役たちも。



都立公園葉所

夜の森でママの帰りを待っている、ひなのフーとポーとビヨのドキドキが伝わってくる絵本です。昼間はたくさんの親子で賑わう公園ですが、夜には、フクロウやタヌキなど、夜の生きものたちも私たちと同じように子育てをしているのかもしれないね。



「よるのおるすばん」  
作：マーティン・ワッデル 絵：パトリック・ベンソン 訳：山口文生 / 評論社

## パークレンジャーと絵本の記憶

公園を訪れた人に、生きものの魅力や不思議を伝えるパークレンジャー。そんな彼らに影響を与え、今も記憶の中に生き続ける思い出の絵本を紹介します。



「14匹のびくにく」  
作・絵：いむら かずお /  
童心社

### 森のネズミになりたかった！

子供の頃、寝る前に私がねだったのは、母には創作物語、父には絵本でした。その中でも、一番多く読んでもらったのが、豊かな森に住む14匹のネズミたちの物語です。

ネズミたちとともに、丁寧に描きこまれたギンヤンマやナナホシテントウ、大きく咲き誇るヤマユリや美味しそうなきイチゴ。時にはネズミの一家とピクニックに行った気になり、時にはページの隅々まで丁寧に描かれた生きものを、ワクワクしながら探して遊びました。だから、薄い絵本なのに、読み終わるのに一時間、なんてことも。

このシリーズで字を覚え、やがて「本の虫」になっていった私ですが、ネズミの一家とともに本の隅々まで目を光らせて探した生きものたちのことは、その後もしっかりと記憶に残っていました。さらに大人になって、私はそんな生きものたちの中で働く人になりました。

矢口 直生 やぐちなお

東京の武蔵野地域に生まれ育つ。人と自然を相手に仕事をしつつ、北海道、三重県、岐阜県、山梨県、栃木県と放浪し、その後東京に戻る。趣味と実益を兼ねたモノづくりが得意。読書は「趣味」ではなく、既に「習慣」。



「もりのゆうえんち」  
作・絵：中村有希 / PHP研究所

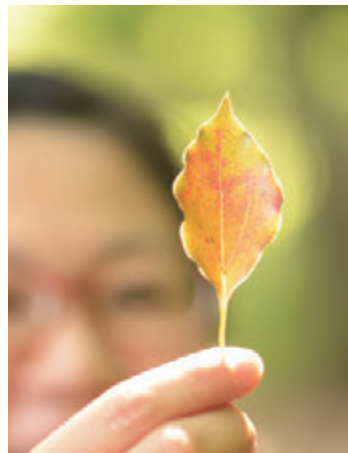
## 森のようせいに教えてもらったこと

ケンが森へ散歩にでかけると、森のようせいアンノンと出会います。アンノンの魔法はとっても素敵！葉っぱがいろんな生きものや乗りものに大変身。ケンはアンノンの世界で大冒険をします。そして、お別れの時、アンノンはケンがまた森のようせいの世界へ遊びにこられるように、にじ色の葉っぱを渡します。

いつか私も見つけられるんじゃないかって、ウキウキしながら葉っぱ拾いをしていました。そうして、探しているうちに自然が生みだす色の美しさが好きになりました。緑や赤・黄色のグラデーションに輝く葉っぱ。夏に落ちるクスノキの葉っぱ。やっと見つけた、わたしのにじ色のきつぶ。私も知らないうちに森のようせいに会い、自然の美しさを教えてもらったのだと思います。

山田 陽子 やまだ ようこ

幼少の頃楽しみだった母親からのお土産は、道端で拾った「タマムシのはね」や「セミの抜け殻」。以来、自然に興味を持ち、パークレンジャーの世界に飛び込む。いまだに道端に落ちているステキなモノ探しが大好き。



この「にじ色のきつぶ」は、クスノキの葉。  
クスノキは、初夏から夏にかけて落葉します。  
葉を折ると、爽やかな香りも楽しめます。

### NEWS

都立野川公園 自然観察センターにて開催中!

## 6人のパークレンジャーが大好きな絵本を紹介します!

パークレンジャーたちが愛してやまない自然に関する思い出の絵本を紹介します。また、1ページだけの自分だけの絵本づくりコーナーや100冊を超える絵本をお楽しみいただけます。ぜひ、遊びにいらして下さい!

開催期間：2015年8月13日(木)～10月31日(土)

問合せ先：都立野川公園自然観察センター TEL 0422-31-9033

開館時間：9:30～16:30 (入場無料)

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

アクセス：JR中央線・武蔵小金井駅南口から京王線調布駅北口行き  
京王バスにて「一之橋」または「二枚橋」バス停下車徒歩5分

※イベントや会議等でレクチャールームを使用する場合は展示をご覧いただけない場合があります。



## ヴィンテージのピクニックカップ

Episode.3

夏の楠は美しい。

常緑の木が少しずつ葉を赤く染め、一枚一枚と落とす。その淡い緑から赤が陽に透け、清流の底を見るようだ。

「ねえ、国分寺へ行くでしょう？ 楠の赤い絨毯の下で、アイスコーヒーを飲むでしょう？」

武蔵国分寺公園の「木漏れ日広場」の片隅、それほど大きくない楠がある。もうすぐその下は赤い葉で埋まる。そんな話をしたことを、僕は忘れていたようだ。

「小さな水筒を二つ持とう。一つは水一つに珈琲！」

僕たちは国分寺駅の南口を出て、坂を降りて川沿いを歩いた。わざと少し遠回りし、静かな裏道を歩いてゆく。

大きな農家の脇を、美しい水が流れている。濃い影の中を子供たちが走り、気の早いニイニイゼミがつかまっていた。庭先にテラスを出しただけのカフェがあり、エプロン姿の主人と立ち話をする。

崖線の緑は力強くふくらみ、「真姿の池」が彼女の白いブラウスを映す。湧水に手を触れ、古い山門の木肌に触れ、石の階段を上がってゆく。訪れる人は少ないが、深い森に包まれたこの寺が好きだ。

寺の裏から出れば、公園の入口はすぐそこだ。木々のむこうの広場で、ランチ

を広げる人たちが見える。彼女の編み籠の中で水筒の水がカラカラと鳴る。広場へ入ると、あの楠が見えた。

「あー！」

彼女が声を上げた。ツヤツヤと光る赤い絨毯には先客がいたのだ。乳母車を引いた若い夫婦が楽しげにくつろいでいる。「あなた……」

「いいよ、いい。こつちのベンチで珈琲を飲もう」

「でも……」

「ここ」の方が、楠と絨毯がよく見えるよ。若い家族と、明るい広場を眺めながら、僕たちはここで珈琲を飲もう」

若い母親の笑い声、乳母車から伸びる小さな手、ツヤツヤ光る赤い絨毯。お気に入りのヴィンテージカップに、彼女がカラカラ珈琲を注ぐ。

蜂須賀 公之 はちすか まさゆき

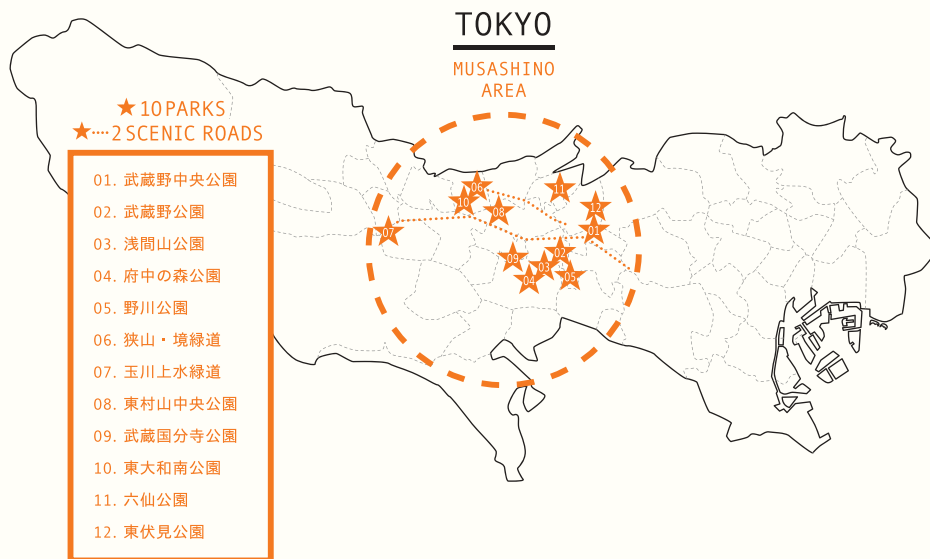
東京の武蔵野地域に生まれ、武蔵野の自然をこよなく愛する。都立公園のパークレンジャー、インタープリターとして活躍する傍ら、写真、執筆など活動は多岐にわたる。

## 西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は、西武造園(株)・ミズノ(株)・NPO法人NPO birthの3団体で構成された共同企業体です。

2011年より公園の指定管理者として「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに武蔵野エリアの10公園2緑道を管理しています。

公園リソースと地域資源を最大限に掛け合わせ、各々の専門性を活かしながら新しい公園づくりを進めています。



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com>



発行日：2015年8月15日

デザイン：川上 明子

写真：井上 茂 (P4-P5、P6、P8-P9)

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ/リュエル・スタジオLLP

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真/都立武蔵野公園(撮影:蜂須賀 公之)

MPM

2015 VOL.3

MUSASHINO  
PARK-LIFE  
MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>